

平成 28 年度第 3 回運営委員会 議事録

平成 29 年 3 月 25 日（土）練習後、市医師会館南のスターバックス他
出席 宇野 小畑 小山 斎藤 高木 宮本 （欠席 榊原）

議題：医師会オケの現況把握・今後のオケの方向性について

1 人事委員より

- ① 退団者 鳥井 (Vn)、加藤 (F1)、池田 (Tuba)
- ② 休団者 山本健 (Vc)；留学のため
- ③ 新入団者 渡邊 (F1)、川村 (Hr)、
→いずれも承認

2 財務委員より

- ① 平成 28 年度決算概要（団員向け資料の作成） 約 41 万の赤字となった。
- ② 平成 29 年度予算案（県医師会に提出済）・予算概要（団員向け資料の確認）
 - ・約 37 万ほど不足する。運転資金が枯渇するのでなるべく早く現金が必要。
- ③ 平成 29 年度資金（定期演奏会に向けて）計画書（by 岩崎 C1）
 - ・4 月の年度初めに団費が入るが、ホール使用料（70 万強）の支払いが 7 月にあるので、すぐに赤字となり、12 月にチケット代が入るまで支出が相次ぐ。
 - ・年明け 3 月には指揮者・ソリストの費用やトラ代、印刷物など支払いが立て込む。
 - ・医師会の補助金（？）100 万や支部のチケット代も入るが、最終的には赤字。
 - ・定期の他に今回は第九があり、これは別会計となる。
→他のオケはどのような状況なのかリサーチする。
- ④ チケット代徴収時期について
 - ・こちらなるべく早くしたいがチャリティ先が決定しないとチケットが作れない。
→会場が決定次第、指揮者決りを急ぎ、選曲等をしながらチャリティ先を選定。
 - ・今年は第九が先にあり、これが終了しないと定期のために動けない。
→水面下で出来ることは行う。

3 団費納入について（規約の附則として、次回改定時に承認を得る。）

チケット代同様、資金繰りのためには早くしたい。納入については後述。
平成 29 年 4 月から新年度スタートとし、各個人ごとに年 1 万。夫婦割なし。
途中入団者は新年となるごとに 1 万、途中退団者には返金なし。

4 運営委員の中での役割分担・仕事内容の確認

① 人事：団員の把握・登録、名簿管理（方法）：団友の扱い

- ・団員は医師会員とその家族とし、団友はそれ以外、としてきたが、この区別を廃止して、すべて団員とする。
- ・団員資格は年度（4月始まり）ごとに団費を納入することで得られ、休団者も在籍する限りは団費を納めなければならない。休団にあたっては届出が必要。団員は一万円、学生は五千円、大学院生は一万円。振込手数料は各自負担。納入は4月一ヶ月間。途中入団者は、基本的にはフル（一万円）で、10月以降であればその半額（五千円）とする。また、一曲でも出るなら休団ではない（当然のことですが）。出演曲数の考慮はない。免除希望者は運営委員会に申し出ることとし、審議する。さらに、理由なく4月中に納入しない者は、運営委員会で審議し、団員資格を取り消すことができる。

② 財務：予算・決算、出納管理、団費・チケット代納入確認

③ 渉外：会場取り（本番のほか、練習場も）、チャリティ先との交渉

④ 庶務：楽譜管理（トラへの配布なども）、楽器管理・運搬、パスカード（団員証）

⑤ その他 運営委員間でのメールのやり取りについて

5 団費納入のためのゆうちょ口座について by 斎藤

開設にあたって団長が規約を決めたものとして、氏名（直筆）、住所を届け出る。
→手続きを医師会庶務課にお願いします。

6 オケのホームページについて

- ・有料の開設サービスを利用して準備中（by 茜部（Hr））
- ・会員だけのパスワード管理されたページを用意して、練習日程などを掲載。

7 定演の団員アンケートより

① 開催時期、開場・開演時刻について

時期は例年通りとし、時間は午前9時開場入り、10時音出しとし、演奏会本番は午後1時開場、午後2時開演と早めて、4時半までに撤収すれば、夜間までの使用料を払う必要がなくなり、経費節減できる。

② 練習時間を午後5時から8時を目途に行いたい。富久田先生とは調整する。

③ 「二年前の刈谷の贅沢を反省していない」←経費節減し、指揮者も地元の先生を探す。

8 医師会オケとしての指針（再確認事項）

① 医師会オケの存在意義

開かれた医師会を世間一般にアピールする目的で設立されているオーケストラであり、新曲・大曲に挑戦しての技術向上は必要ではあるが、第一目的となってはいけない。

② 定期演奏会の目的（チャリティコンサート＝まず聴衆ありき、のオケであること）

苦しい予算の中で、たとえ少額であっても、チャリティの精神を忘れずに継続したい。

③ 目的を達成するための指揮者・ソリスト選びと選曲が必要

・常に新しいものを追うのではなく、基本に立ち返って考える。「食い散らかし」はすべきではなく、過去に取り上げた曲であってもより高い完成度を目指せば良い。

・長期的な視点に立ってオケの進歩を考えてくれる指揮者・ソリストとの関係を作る。

④ 資金難を充分理解した上で今後運営していく

経費節減を第一に、相見積もりを取るなどし、事後の反省も怠らず次に活かす。

支出減：エキストラの人数、楽器運搬、パー練指導料、楽譜代、印刷費用など

＊パー練指導料は一回2万で月2回まで出すとしているがこれは廃止し、自腹。

収入増：チケット販売方法、広告料収入増への考察

⑤ 団費の意義・目的

「本楽団の健全な運営を継続するため」のものである。

⑥ 運営委員会の位置付け

運営委員会から技術委員会・企画委員会へ方針を指示する。上がってきたものが方針にそぐわなければ差戻すなど、指揮系統の確認が必要。場合によっては役員会の開催も視野に入れる。